

令和 2 年度使用
小学校教科用図書調査研究答申

山県教科用図書採択地区協議会

目 次

国 語	1
書 写	3
社 会	5
地 図	7
算 数	9
理 科	12
生 活	15
音 楽	17
図画工作	18
家 庭	19
保 健	20
英 語	22
道 徳	26

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	国語
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(国語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・各単元の教材文の前の導入ページに「言葉の力」の目標を示している。「言葉の広場」では、人物の行動や気持ち、性格を表す言葉が掲載されている。
	観点2	・学習の見通しとして「①議題を決める。②話し合いの計画を立てる。③グループで話し合う。(意図を明確にしながら計画的に話し合う。)」が示されている。
	観点3	・第2学年以上の各巻に「国語の学習の進め方」「〇年で学習する言葉の力」を設けてあり、年間を通じて「何をどのように学ぶか」が見通せるようになっている。
	観点4	・「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域に分け、各単元で身につける言葉の力を一覧で示している。
	観点5	・第3学年、第5学年、第6学年では「グループでの話し合い」、第4学年では、「グループの提案をもとにクラス全体で話し合う」が示されている。
11 学図	観点1	・各単元の冒頭に的のイラストとともに学習目標が示されている。巻末資料の「言葉のへや」では、行動を表す言葉が掲載されている。
	観点2	・「読むこと」では、見開き構成で学習内容を見渡し、「めあてを確認する」「学習に取り組む」「学習を振り返る」という学習過程を示している。
	観点3	・説明文教材の後に「書くこと」の教材が設定されている。第6学年には「読むこと」と「書くこと」、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の領域を関連させた複合単元が設定されている。
	観点4	・学習の進め方として、「国語の学習の進め方を確かめよう」と提示し、「つかむ」、「見方や考え方を学ぶ」「まとめる・ふり返る」「広げる」という学習過程を示している。
	観点5	・中学年ではクラス全体での話し合い、高学年では討論会やパネルディスカッションを提示し、様々な話し合いを示している。
17 教出	観点1	・巻頭の「〇年生で学ぶこと」のページに各単元の目標を示し、言葉の特徴や使い方に関する事項「言葉の木」では、行動を表す様々な言葉を示している。

	観点2	・学習の見通しとして、「①テーマを決めて調べる。②話し合いの準備をする。③『ミニディベート』を行う。④感想を交流する。」を示している。
	観点3	・1つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。
	観点4	・「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域に分け、「単元名」「めあて」「ここが大事」を示し、学習順に道で繋ぎ、地図として示している。
	観点5	・「グループでの話し合い」「クラス全体での話し合い」「ミニディベート」「パネルディスカッション」といった様々な話し合い活動が示されている。
38 光村	観点1	・各単元の冒頭に具体的な目標を示している。各学年の「言葉のたから箱」では、考えや気持ちを伝える言葉、人物や事物を表す言葉を示している。
	観点2	・「読むこと」の単元では、読みの着眼点と学習の見通しを示し、手引きで課題を一覧できるようにして思考の整理の仕方、学びの姿を示している。
	観点3	・一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。
	観点4	・「つきたい力・学習すること」として、第2学年以上で「□学年で学習すること」では「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域ごとに、教材名・身につきたい力(たいせつ)・学習用語を示している。
	観点5	・「班での話し合い」「クラス全体での話し合い」「グループでの話し合い後クラスで共有」といった話し合い活動が示されている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	書写
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・単元の目標の示し方では、「～するにはどうしたらよいか考えましょう」のように問いかけの形態で目標が設定されている。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計46P掲載されている。
	観点2	・学習過程を「見つけよう。→たしかめよう。→生かそう。→話し合おう。→広げよう。」とし、どのように学ぶかを明確に示し、「書写のかぎ」をキーワードに課題解決的な学習展開になっている。
	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が35P、伝統的な言語文化に関する内容が9P、計44P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、筆順のきまりにあたる部分の色を変え、筆順を赤字で示し、一部を書き込むようにしている。色の数や分量を制限したり、書き込み欄を文字の下や教材文の左右両方に配置している。
	観点5	・「生活に広げよう」「学びに生かそう」という単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて24掲載されている。
11 学図	観点1	・単元の目標の示し方では、「～しよう」と呼びかけの形態で目標を示している。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計33P掲載されている。
	観点2	・「1ためして書こう→2考えて書こう→3生かして書こう」という学習過程を設定し、何が身についたかが実感できる構成になっている。
	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が18P、伝統的な言語文化に関する内容が18P、計36P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、筆順を赤字で示し、書き方のカギを異なる書体と文字で2回示している。書き込み欄は教材文字の下に配置している。全体的に書き込み欄を多く設けている。下部分に新出漢字の筆順を色で分けて示している。
	観点5	・「書写の資料館」「発展」の単元を設けている。学びを生かす教材数は全学年合わせて44掲載されている。
17 教出	観点1	・単元の目標の示し方では、「めあて」とし、「～しよう」と呼びかけの形態で目標を示している。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計47P掲載されている。

	観点 2	・学習過程を「見つける、くらべる→書く、たしかめる→ふり返る、伝え合う→広げる」とし、教材を比較・検討し、気づいたことを生かして書く構成になっている。
	観点 3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が 37 P、伝統的な言語文化に関する内容が 11 P、計 48 P 掲載されている。
	観点 4	・硬筆では、筆順を黒数字で示し、書き順のきまりにあたる部分を赤で示している。下部分に新出漢字の筆順を黒数字で示している。書き順のきまりを 2 回示している。
	観点 5	・「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて 29 掲載されている。
3 8 光村	観点 1	・単元の目標の示し方では、「分かりやすいのはどちらだろう」といった問いかけの形態で目標が設定されている。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第 1 学年と第 3 学年で計 46 P 掲載されている。
	観点 2	・学習過程を「考えよう（整った文字の書き方を考えよう）」→「確かめよう（書き方をたしかめて毛筆で書こう）」→「生かそう（学習したことを生かして、書こう）」として提示してある。自分で考えたり、確かめたりするだけでなく、友達と話し合う学習展開を設け、対話的な学びを通して、学習を深められるような構成になっている。
	観点 3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が 29 P、伝統的な言語文化に関する内容が 7 P、計 36 P 掲載されている。
	観点 4	・硬筆では、書き順のきまりを緑色の矢印、上段筆順（決められた色）下段筆順（赤数字）で示している。書き順の決まりを異なる書体と文字で 2 回示している。書き込み欄を教材の右側に配置している。
	観点 5	・「学習に生かそう」「やってみよう」「書写ブック」「発展」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて 29 掲載されている。
1 1 6 日文	観点 1	・単元の目標の示し方では、「～して書こう」という呼びかけの形態で目標を示している。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第 1 学年と第 3 学年で計 39 P 掲載されている。
	観点 2	・学習過程を「課題をはっきりさせ、見通しをもつ→学習に取り組む→ふり返り、次の学習に生かす」とし、キャラクターの発言が、児童の「気づき」を促すように設定され、課題解決的な学習展開を行い、自己評価を行うことができる構成になっている。
	観点 3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が 27 P、伝統的な言語文化に関する内容が 9 P、計 36 P 掲載されている。
	観点 4	・硬筆では、筆順を青数字で示し、一部を空欄で書き込むようにしている。新出漢字の筆順を教材文字の横に配置している。書き込み欄を教材文字の下に配置している。
	観点 5	・「生活と書写」「国語の広場」「チャレンジ」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて 30 掲載されている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会
第1推薦	2 東書
第2推薦	17 教出

(社会) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	○タイトルの左横に「つかむ」、「調べる」、「まとめる」の学習過程とともに、「どのような～でしょうか。」「～は、なぜでしょうか。」等の問いかけの形態で提示している。
	観点2	○問題解決的な学習過程については、単元ごとに「つかむ」の後に「学習問題」を示し、見開きページごとに問いを提示しながら「調べる学習」を進め、学習問題について調べてわかったことを整理し、「まとめる」というページを設けている。単元によっては、単元末に、学習したことを次の学習や生活に「いかす」、学習したことをもとに、他の学習に「ひろげる」というページを設けている。
	観点3	○4年 自然災害からくらしを守る【地震(18) 発展：風水害(2) 火山災害(2)】 ・避難行動計画やハザードマップ、自主防災隊を取り上げ、市や住民の取組を調べている。 ・地震から人々を守る取組をカードにまとめている。 ・地震が起きて、学校が避難所になった場合、自分はどうするか考えさせている。 ○6年 政治・国際編 116・わたしたちの生活と政治(63)・世界の中の日本(53) 歴史編 160・日本の歴史(160)
	観点4	○「学び方コーナー」を「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・つたえる」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。
	観点5	○単元末の「まとめる」の場面や単元後の「いかす」場面において、「説明しよう」「話し合おう」「発表しよう」などと提示し、学習した内容を活用し、歴史上の主な事象や社会的な事象について説明や話し合いの活動を設けている。
17 教出	観点1	○見開きの左側に「この時間の問い」として「どのような～だろう。」等と、右下側に「次につなげよう」のコーナーを設け、「～はどうなっているだろう。」等と問いかけの形態で提示している。
	観点2	○問題解決的な学習過程については、単元ごとに「みんなで作った学習問題」を示し、見開きページごとに「問い」と「次につなげよう」という項目を示して調べる学習を進め、キーワードに注目して学習を振り返る「まとめる」というページを設けている。単元によっては、単元末に、次の学習や暮らしに「つなげる」、学習を「ひろげる」というページを設けている。

	<p>観点3</p>	<p>○4年 自然災害にそなえるまちづくり (34) 【地震 (16) ※選択：水害 (12) 火山災害 (2) 雪害 (2)】 ・市役所職員の話やハザードマップを取り上げ、市の役割や情報伝達の取組を調べている。 ・避難地や津波避難タワーを取り上げ、災害に備えた施設や設備を調べている。 ・夜の避難訓練など、地震や津波に備えた更なる取組を調べている。 ・地震や津波に備えた取組をまとめ、これからの生活に生かすための標語を作っている。 ○6年 276・ともに生きる暮らしと政治 (63)・日本の歴史 (168) ・世界の中の日本 (45)</p>
	<p>観点4</p>	<p>○「学びのてびき」を「集める」「読み取る」「表す」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。</p>
	<p>観点5</p>	<p>○単元末の「まとめる」の場面や単元後の「つなげる」場面において、「説明しよう」「話し合おう」と提示し、学習した内容を活用し、歴史上の主な事象や社会的な事象について説明や話し合いの活動を設けている。</p>
<p>116 日文</p>	<p>観点1</p>	<p>○タイトルの左横に「どのような～だろう。」「～わけは何だろう。」等の問いかけの形態で本時の問いを提示している。</p>
	<p>観点2</p>	<p>○問題解決的な学習の進め方について、単元ごとに「学習問題」を示し、見開きページごとに「問い」を提示しながら調べる学習を進め、これまで学習してきたことをもとに、学習問題について話し合う活動を設定している。単元によっては、単元末に、もっとくわしく調べてみたいことを取り上げる「わたしたちの学びを生かそう」というページを設けている。</p>
	<p>観点3</p>	<p>○4年 水害 (16) ※選択：地震 (4) 津波 (6) 火山災害 (2) 雪害 (2) ・メール配信サービスやハザードマップを取り上げ、災害に備えた情報伝達のための取組を調べている。 ・水害対策訓練を取り上げ、災害に備える取組を調べている。 ・災害に備える取組をまとめ、自分たちにできることを考えている。 ○6年 270 ・わが国の政治のはたらき (49)・日本のあゆみ (180) ・世界の中の日本とわたしたち (41) ・補充的・発展的教材の分量 上巻 (15) 下巻 (6)</p>
	<p>観点4</p>	<p>○「学び方・調べ方コーナー」を「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。</p>
	<p>観点5</p>	<p>○単元末や単元後の「わたしたちの学びを生かそう」の場面において、学習したことをまとめたノートや児童が話し合っている様子をイラストで示し、学習した内容を活用し、歴史上の主な事象や社会的な事象について話し合いの活動を設けている。</p>

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	地図
第1推薦	4 6 帝国
第2推薦	2 東書

(地図) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・読図に関しては、『地図帳の使い方』で説明し、具体的な活用の仕方を例示している。 ・巻末の『世界の国々』では世界の国々国旗を、巻頭の『地図のぼうけんに出発！WORLD MAP』や世界の各地方図では、物産や建物・地域の特色を示すイラストや写真等を掲載している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・『くらべてみよう日本と世界』で、世界各地の有名な山、川、建造物等をイラストで紹介している。 ・全般にわたってキャラクターの吹き出しで作業的な学習を例示したり、方位や国の大きさを調べる方法を写真入りで掲載したりしている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・全体から部分をとらえることができるように、日本列島全体を見渡す地図に始まり、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、主題図、統計資料、索引と系統的に配列している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・『地図帳の使い方』で、地図記号、この地図帳での記号、方位の見方、縮尺の見方、土地利用の見方、土地の高さの見方、索引の使い方、広く見る時、くわしく見る時、地方別に見る時の見方について、イラストを使って説明している。 ・「Dマーク」を掲載し、Web ページ上で資料等の活用方法等を紹介している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料地図、統計表」で、ページ上段の言葉やキャラクターの吹き出しで、調べる観点等を示している。 ・自分たちの地域でも作成できるように、『日本の自然災害』において、ハザードマップを示し、自分の地域のハザードマップで確認する点について記載している。
4 6 帝国	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・読図に関しては、『地図って何だろう』『地図のやくそく』『地図帳の使い方』で順を追ってくわしく説明し、具体的な活用の仕方を例示している。 ・巻頭の『世界発見！』で民族衣装・あいさつの言葉、巻末の『世界の国々』で世界の国々の旗を、世界の各地方図で、地域の国旗や特色を示すイラストや写真等を掲載している。

観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭の『世界発見！』のイラストマップに、世界各地の名所や食事等をイラストで示すとともに「世界の国からこんにちは！」でイラストを用いて世界のあいさつを紹介している。 ・ 全般にわたって「地図マスターへの道」で作業的な学習を例示したり、防災マップ作りの手順を示して体験的な学習を例示したり、「地図のやくそく」で距離や方位を調べる方法や土地の面積や形を調べる方法を写真入りで掲載したりしている。
観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の地方ごとに広く見わたす地図に始まり、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、主題図、統計資料、索引と系統的に配列している。
観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『地図のやくそく（１）（２）』で、地図記号、この地図での記号、方位の見方、縮尺の見方、土地利用の見方、高さの見方、索引の使い方、目的に合わせた見方等について、イラストを使ったり、ワークシート形式で記入したりして説明している。 ・ 二次元コードを掲載し、Web ページ上で資料の活用方法を紹介している。
観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全般にわたって、「地図マスターへの道」で、イラスト、吹き出しを活用して学び方や調べ方の簡単な作業を指示し、資料活用の仕方を示している。 ・ 自分たちの地域でも作成できるように、『日本の自然災害と防災』において、「防災マップづくり」で地図を使ったまとめ方のヒントや手順を示し、地図の作品の例を掲載している。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	算数
第1推薦	2 東書
第2推薦	1 7 教出

(算数) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・1年の数の分解では、10の補数を自分で考える学習活動に繰り返し取り組ませる流れになっている。2年のかけ算では、九九の読み仮名を表記するとともに、九九を覚えるための具体的な練習の仕方をまとめて示している。
	観点2	・図やイラスト等で日常の場面や既習を取り上げ、対話により単元の学習課題をつくる「単元プロローグ」がある。(1P) ・対話により、単元全体の学習を振り返り、価値づけたり、次の学習を創出したりする「つないでいこう算数の目」がある。(1P)
	観点3	・6年「データの活用」における中学校との接続に関わる記述が1.5ページで示されている。
	観点4	・表紙裏にあるURLや二次元コードからコンテンツにアクセスできる。(コンテンツ数85) 対応する箇所にはDマークを示している。
	観点5	・特設ページ「学びのとびら」(2P)を設け、「友だちと学ぼう」等の学習活動ごとに観点を示し、また、その活動の観点を単元の中にも挿入している。 ・特設ページ「算数マイノートをつくろう」「算数マイノートを学習に生かそう」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントや学習の感想を説明している。
4 大日本	観点1	・1年の数の分解や2年のかけ算では、学習内容を家庭や地域の生活に生かす「おうちで算数」コーナーに、学習内容の定着につながるような家庭での遊びを示している。2年のかけ算では、九九の段ごとに異なる練習の仕方を示している。
	観点2	・イラスト等の場面から、問題や疑問を見いだす「新しい学習がはじまるよ」がある。(1P) ・算数が社会で生かされていることを実感できる「ふくろう先生のなるほど算数教室」がある。(1~2P)
	観点3	・6年「データの活用」における中学校との接続に関わる記述が2.5ページで示されている。

	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・『楽しい算数』の使い方にあるURLや二次元コードからコンテンツにアクセスできる。(コンテンツ数88) 対応する箇所には、デジタルコンテンツマークを示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「算数まなびナビ」(2P)を設け、「学び合おう」等の学習活動ごとに観点を示し、また、その活動の観点を単元の中にも挿入している。 ・特設ページ「算数まなびナビ～ノートのかき方～」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の数の分解では、ドット図付き数カードでのゲームを示し、量感を伴った数処理を促している。第2学年のかけ算では、九九の読み仮名の字数が多いものは、一部字幅を縮小している。九九のカードの絵を示して練習を促しているが、具体的な練習の仕方は示されていない。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・イラスト等から、日常や算数の授業の中で疑問が生まれる場面、「?を発見」がある。(1P) ・生活の中で算数を役立てることが意識できる「深めよう 生活にいかす」がある。(1P)
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・6年「データの活用」における中学校との接続に関わる記述が8ページで示されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさはA B判で、作業部分を広くしている。主要な本文書体には独自に開発した書体を使用し、立体感のある絵図を使用している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「3つの学び方で学習を進めよう」(2P)を設け、「主体的な学び」「対話的な学び」等の内容を示し、学習内容と関連づけて説明している。 ・特設ページ「考えるノート」「まとめるノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の数の分解では、10の分解・合成を、並び方のきまりやドット図、ブロック図とともに繰り返し確認できるように折込にしている。2年のかけ算では、九九の読み仮名を表記するとともに、具体的な練習の仕方やまちがしやすい九九を示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材から問題を発見し、算数の問題としてモデル化する「どんな学習がはじまるのかな？」がある。(2P) ・元で学習したことを日常生活に活用する「学んだことを使おう」がある。(1P)
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・6年「データの活用」における中学校との接続に関わる記述が1ページで示されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの手引き」にあるURLや二次元コードからコンテンツにアクセスできる。(コンテンツ数57) 対応する箇所には、「まなびリンク」マークを示している。作図の手順も連続写真(動画にリンク)示されている。(左利きにも対応)

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「学習の進め方」(2. 5 P) を設け、「みんなで話し合う」等の活動の観点を絵と言葉で示し、また、その活動の観点を単元の中にも挿入している。 ・特設ページ「友だちのノートを見てみよう」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。
6 1 啓林館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の数の分解では、おはじき入れの場面を示して10の分解を促している。2年のかけ算では、九九を覚えるための具体的な練習の仕方一つずつ示し、関連単元前にそれらをまとめて示している。九九の答えの部分の読み仮名は、どの段の学習ページにも示されていない。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象や既習事項から問題を見いだす「単元とびら」がある。(1 P) ・日常の事象や算数の学習場面から見いだした問題を解決する「学びをいかそう」や仕事と算数との関わりを記した「ひろがる算数」がある。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・6年「データの活用」における中学校との接続に関わる記述が2ページで示されている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・対応する箇所にある二次元コードからコンテンツにアクセスできる。(コンテンツ数370)
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・特設ページ「学習の進め方・わくわく算数学習」(4 P) で、学習の進め方や「みんなで話し合おう」等の活動の観点を示し、また、上巻末の「資料集」で説明の仕方等を示し、説明している(2 P)。 ・特設ページ「考えがよくわかる わくわく算数ノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。
1 1 6 日文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の数の分解では、挿絵をもとに10の分解をした後で、隠された10の補数を自分で考える流れになっている。2年のかけ算では、切り取り式の九九マスターカードを使った九九の習熟を促している。九九の読み仮名の字数が多いものは、全て字幅を縮小している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・操作活動や既習内容の振り返りや関連付け等から新しい学習への素地づくりを行う「単元アプローチ」がある。(1 P) ・作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用して、算数と生活の関連を示す「Hello Math」がある。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・6年「データの活用」における中学校との接続に関わる記述が1ページで示されている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・目次にあるURLからコンテンツにアクセスできる。対応する箇所には、Webマークを示している。(コンテンツ数41)
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・上巻頭(1年のみ下巻頭)に特設ページ「算数の学習の進め方」(1 P) で概要を示し、上巻末に切り取って使えるシート「学びガイド」(1枚)を付け、「学び合おう」等の活動の観点を示し、また、その活動の観点を単元の中に挿入している。 ・特設ページ「算数ノートをつくろう」「つなげよう! 学びとノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	理科
第1推薦	6 1 啓林館
第2推薦	1 1 学図

(理科) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけの形で問題を提示し、単元末に、「たしかめよう」を設けている。 「理科のひろば」で、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている内容を掲載している。 フローチャートと番号で手順を示すとともに、写真や図を用いて説明している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を、巻頭の「理科の学び方」で示している。 まとめた後に、「学びを生かして深めよう」を設けている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 全学年のページ数 788 ページ 全学年の単元数 54 (A区分 18, B区分 34, AB区分 2) 全学年の単元以外の内容数 33
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭には、「理科の学び方」で、学習の進め方を掲載している。 各単元の冒頭では、写真を使用しており複数の写真を並べながら自然事象を提示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程において、吹き出しをつなぐ形で児童の対話を示している箇所がある。
4 大日本	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中での事象を示し、呼びかけの形で問題を提示し、単元末に「たしかめよう」や「学んだことを生かそう」を設けている。 「りかのたまてばこ」で、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている内容を掲載している。 番号をつけて手順を示し、写真や図を用いて説明している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を、巻頭の「理科の学び方」で示している。 実験結果を受け、結果から言えることを話し合おうから、考察、結論へとつないでいる。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 全学年のページ数 826 ページ 全学年の単元数 55 (A区分 19, B区分 36, AB区分 0) 全学年の単元以外の内容数 43
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭には、「理科の学び方」で、学習の進め方の資料を掲載している。 各単元の冒頭では、写真を使用して自然事象を提示している。

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程において、机をはさんで話し合う形で児童の対話が見られる箇所がある。
1 1 学図	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけの形で問題を提示し、単元末に「まとめてみよう」を設けている。 ・「しりょう」において、学習内容が仕事や生活に生かされている様子を掲載している。 ・番号をつけて手順を示し、写真や図を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方を、巻頭の「科学の芽を育てよう」で示している。 ・まとめた後に、「学びを生かそう」の項目を設けている。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年のページ数 804 ページ ・全学年の単元数 56 (A区分 19, B区分 37, AB区分 0) ・全学年の単元以外の内容数 24
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭には、「科学の芽を育てよう」で、学習の進め方等の資料を掲載している。 ・各単元の冒頭では、写真を使用して自然事象を提示している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程に関係付けられた項目において、児童の対話を示している箇所がある。
1 7 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・問いかけの形で問題を提示し、単元末に「確かめ」を設けている。 ・「しりょう」や「科学のまど」において、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている内容を掲載している。 ・番号をつけて手順を示し、写真や図を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方を、巻頭の「学習の進め方」で示している。 ・まとめた後に、「学びを広げよう」の項目を設けている。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年のページ数 904 ページ ・全学年の単元数 55 (A区分 19, B区分 36, AB区分 0) ・全学年の単元以外の内容数 35
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭には、科学の専門家の「メッセージ」の他、「学習の進め方」で理科を学ぶの有用性を示されている。 ・各単元の冒頭では、写真を使用して自然事象を提示している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程において、教師の問いかけに答える形で児童の対話を示している箇所がある。
2 6 信教	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけや問いかけの形で問題を提示し、単元末に「まとめよう」を設けている。 ・「しりょう」において、科学者の発明や実生活に関連付けられている資料を掲載している。 ・番号をつけて手順を示し、写真や図を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方を、「理科の学習の進め方」で示している。 ・実験の後に「いえること・いえないことを考えよう」を設けている。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年のページ数 680 ページ ・全学年の単元数 51 (A区分 18, B区分 33, AB区分 0) ・全学年の単元以外の内容数 12

	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭には、「理科の学習の進め方」で学習の進め方の資料を掲載している。 各単元の冒頭では、写真を使用して自然事象を提示している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> 気づきを交流したり、意見交換したりする場面において、机をはさんで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。
6 1 啓林館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけの形で学習のめあてを提示し、単元末に「ふり返ろうまとめノート」を設けている。 「理科の広場」や「つなげよう」において、学習内容が実生活に関連する内容を掲載している。 番号をつけて手順を示し、写真や図を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」で示している。 実験の後に「もっと知りたい」を設けて、意欲を高めている。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> 全学年のページ数 796 ページ 全学年の単元数 53 (A区分 19, B区分 34, AB区分 0) 全学年の単元以外の内容数 31
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の巻頭には、「自然の不思議をとき明かそう！」で学習の進め方の資料を掲載している。 各単元の冒頭では、写真を使用して自然事象を提示している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程において、机をはさんで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	生活
第1推薦	2 東書
第2推薦	1 7 教出

(生活) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「校庭」「公園」「季節の暮らし」「ほんとうのおおきさポケットずかん」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、1ページの写真とイラスト、ふきだしで示されている。
	観点3	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の主な例がページ下段に示されており、それを踏まえて生活科の学習が進められることを保護者に伝えている。
	観点4	・キャラクターが、児童に思考や活動、安全・衛生上で留意することを促している。
	観点5	・探検マップ、新聞、ポスターなどにまとめたり、電子黒板で発表したりする活動を設定している。
4 大日本	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「校庭」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページの写真とイラストで示されている。
	観点3	・「わくわくすることいっぱいだよ」のページで合科的・関連的な学習活動を示している。
	観点4	・「せいかつことば」や「きらきらことば」のマークを見開きページ右端に提示している。
	観点5	・クイズ、紙芝居、ポスターなどを用いて発表したり、タブレットや電子黒板を使用して報告したりする活動を設定している。
1 1 学図	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「生物」「町の季節」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページの写真とイラスト、ふきだしで示され、めあてが記載されている。
	観点3	・「やってみたいな」のページで合科的・関連的な学習活動を示している。
	観点4	・「どきどき」「いきいき」「ふむふむ」「にこにこ」をページ左上に示し、学習過程のどの場面かを示している。
	観点5	・電子黒板や新聞、地図にまとめて伝えたり、招待状やお礼の手紙を書いたりする活動を設定している。
1 7 教出	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「校庭」「野原」「のはらのカレンダー」「町」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページの写真とふきだしで示されている。「学びのポケット」のページを記載している。
	観点3	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の主な例がページ下段にイラストで示されている。

	観点4	・サイコロマークで、生活科で育成する6つの力（気付く、自分で出来る、考える、伝える、挑戦する、自信をもつ）を抽出して単元導入ページに提示している。
	観点5	・電子黒板、紙芝居、新聞などで発表したり、ポスターや感謝状を作成して伝え合ったりする活動を設定している。
26 信教	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「いつものぼしょ」「さんぼみち」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページのイラスト、つぶやきで示されている。
	観点3	・「あそぼうよ」のページで合科的・関連的な学習活動を示している。
	観点4	・2名の児童のイラストが、児童に思考や活動を促している。
	観点5	・電子黒板を使って説明したり、掲示板上に招待状を掲示したりする活動を設定している。
38 光村	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「なかよしの木の1年」「きせつのおくりもの(きせつのなかまたち)」「きせつのおくりもの(町)」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページの写真とイラスト、キーワードで示されている。
	観点3	・「きょうはなにをしようかな」のページで合科的・関連的な学習活動を示している。
	観点4	・「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階のマークで各単元の学習過程を示している。
	観点5	・ポスターやクイズ、新聞や電子黒板、パンフレットを使って説明したり、作成したポスターやお礼の手紙を取材した方々へ渡したりする活動を設定している。
61 啓林館	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「校庭」「公園」「きせつだより」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページの写真とイラスト、ふきだしで示されている。二次元コードではさみとカッターナイフの使い方を記載している。
	観点3	・「うきうきあそぼう」のページで合科的・関連的な学習活動を示している。
	観点4	・キャラクターが、気付きのヒントや安全上の留意点などを示している。
	観点5	・電子黒板や写真、ペープサートや劇、クイズなど多様な表現方法で交流するよう促している。
116 日文	観点1	・四季の変化を対比させたページについては、「学校」「公園」「きせつがちがいをふりかえろう」「ちえとわざのたからばこ」で示されている。
	観点2	・おもちゃづくりの単元の導入は、見開き2ページの写真とイラストで示されている。
	観点3	・「あそぼうまなぼう」のページで合科的・関連的な学習活動を示している。
	観点4	・「ふりかえる・つなげる」マークで、学習活動を振り返ったり次の活動へつなげたりするよう促している。
	観点5	・新聞、ポスター、電子黒板、体験コーナーなどで説明したり、お礼の気持ちを歌や手紙で伝え合ったりする活動を設定している。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	音楽
第1推薦	27 教芸
第2推薦	17 教出

(音楽) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 各教材の学習目標をページ左上に横書きで記載している。 学習活動の見通しを示す文を見開き左側に縦書きで示している。 目次に見通しを示す文を記載している。 「歌声」のコーナーを設け、歌い方のポイントを写真・絵と文で示している。 リコーダー指導は、「こんにちはリコーダー」「めざせ楽器名人」として、段階的にリコーダーの指導を示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年の音楽づくりでは、まず楽器を選ばせ、音を出して試行錯誤させながらリズムカードを用いて音楽をつくる学習過程が示されている。 世界で活躍する表現者からのメッセージ等を掲載している。 世界の音楽や音楽と社会のつながりなどに関する内容を掲載している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 「にっぽんのうた みんなのうた」コーナーを配置している。 鑑賞曲16曲、歌唱教材23曲、和楽器を第2学年から取り上げている。 低学年から交互唱・輪唱・パートナーソングを配置し、第3学年から部分二部合唱、二部合唱が配置され、第5学年から三部合唱を導入している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を見開き右ページ上に「音楽のもと」として示し、中・高学年にはメモ欄がある。巻末には「音楽のもと」としてまとめている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合う音楽」を設け個人で曲の魅力を見つけたり、グループでどんな表現にしていきたいか話し合ったりする場面を設定している。 鑑賞では、聴き取ったことや音楽の感じなどを記入する欄の記載がある。
27 教芸	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 各教材の学習目標をページ左上に横書きで表記している。 学習活動の見通しを示す文を見開き左側の題材名の下に縦書きで示している。 教材の目標の下にその教材を学習するにあたっての活動の見通しが記載されている。 「うたごえ」のコーナーで歌い方を絵と文で示している。歌唱の手がかりとして旋律の流れを表す図等がある。 リコーダー指導は、楽器の扱い方、音の止め方、音あな番号、あなのとじ方、指のはら等、リコーダーの紹介や演奏の基本事項を項目立てしてイラスト・写真・文などで示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年の音楽づくりでは、基本のリズムや旋律を例示し、それを基にリズムや旋律をつくり、組み合わせて音楽をつくる学習過程が示されている。 世界で活躍する表現者からのメッセージ等を掲載している。 世界の音楽や音楽と社会のつながりなどに関する内容を掲載している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 「歌いつなごう日本の歌」を設置している。 鑑賞曲22曲、歌唱教材16曲、和楽器は第3学年から取り上げている。 第1学年交互唱、第2学年輪唱、第3学年オスティナート唱、第4学年パートナー唱、二部合唱、第5学年部分三部合唱、第6学年三部合唱を導入している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を見開き右ページ下に示している。巻末の「ふりかえりのページ」にその学年で扱う音楽を形づくっている要素をまとめて記載している。関連するページ番号も示されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞や曲の特徴やよりよい表現方法を考え話し合う活動を仕組んでいる。 鑑賞では、感じたことと気づいたことを記入する欄の記載がある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	図画工作
第1推薦	9 開隆堂
第2推薦	116 日文

(図画工作) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
9 開隆堂	観点1	・各題材の学習の3つの目標が児童の学習を促す表現になっている。キャラクターのコメントや児童の自己評価につながる振り返りの視点は、特に重点的とする目標に対応している。基礎的な表現技法等が具体的に写真や文で示されている。
	観点2	・活動のきっかけとなる文を示している。表現と鑑賞の関連が図られ、身近な作品・我が国や諸外国の親しみある美術作品等や生活の中の造形が鑑賞の対象として、低中学年で2～3、高学年では6～10紹介されている。
	観点3	・学年の項目において題材を5項目に分類して配列してある。育てたい資質能力を軸に内容が構成されている。作品等にはサイズを明記している。1ページ題材を低学年では全題材中ほぼ半分、中高学年では2つずつ掲載しており、内容に軽重がつけられている。
	観点4	・「学習のめあて」の3つの目標が「～しよう」という形で、児童に働きかける言葉で記述してある。教科書の最下部に、学習後の振り返りの視点と、他教科との関連が、枠付きで明示されている。
	観点5	・友達との関わり・対話を促す文が示されている。発想や構想・鑑賞、製作の場面において、児童が一人でつぶやいた言葉や友達と楽しく対話をしたりしている言葉、写真が紹介されている(共同活動の1枚の写真が概して大きい)。
116 日文	観点1	・各題材の学習で育てる三つの資質・能力が常体で示されている。活動後に、「学びに向かう力、人間性等」に関わる振り返りを促す記述が示され、学びが次の学習や生活に活かされるようにしている。
	観点2	・活動のきっかけとなる文を示している。表現と鑑賞の関連が図られ、身近な作品・我が国や諸外国の親しみある美術作品等や生活の中の造形が鑑賞の対象として、どの学年でも4～5種類程度、紹介されている。
	観点3	・学年の項目において題材を5項目に分類して配列。どの題材に置いても、三つの資質能力を同じように育てていくという考えで内容が構成されている。作品等にはサイズを明記している。どの学年も、すべての題材が見開きになっている。
	観点4	・「学習のめあて」の3つの目標が、「～する」という表記の形で記述してある。教科書の最下部に、安全に係る留意点と片付けのポイント、学習に使う道具が明示されている。
	観点5	友達との関わり・対話を促す文が示されている。発想や構想・鑑賞、製作の場面において、児童が一人でつぶやいた言葉や友達と楽しく対話をしたりしている言葉、写真が紹介されている(園児・中学生と活動する写真も掲載)。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	家庭
第1推薦	2 東書
第2推薦	9 開隆堂

(家庭) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能のポイントとして巻末に「いつも確かめよう」を18か所掲載している。
	観点2	・学習指導要領に新設の「生活の課題と実践」に対応したページを「生活を変えるチャンス!」として単元末の5ヶ所に掲載している。 ・巻頭の「成長の記録」では、題材ごとに分かったこと、できるようになったことを自己評価でき、学びの足跡が分かるようにしている。
	観点3	・A4サイズで写真や図が大きい。 ・総ページ数145である。 ・第5学年の最後にミシンの学習を配列している。
	観点4	・「日本の伝統」「プロに聞く!」「安全」などのマークが示されている。
	観点5	・主に「活動」の「話し合おう」のところやワークシートに書く場面で、話し合いやまとめ方の例が示されている。
9 開隆堂	観点1	・巻末に、調理実習・製作実習の資料を9か所示している。また、家庭科学習で使われる基礎用語の索引がある。
	観点2	・学習指導要領に新設の「生活の課題と実践」に対応したページを「レッツトライ 生活の課題と実践」として第5・第6学年の間の4ページに掲載している。
	観点3	・従来の、縦がB5、横がA4のABサイズである。 ・総ページ数137である。 ・第5学年の最初と最後にA領域「家族・家庭生活」にかかわる題材を配置している。
	観点4	・生活の見方・考え方の4つの視点がマークで示されている。
	観点5	・主に「考えよう」、「話し合おう」、「発表しよう」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	保健
第1推薦	2 東書
第2推薦	2 2 4 学研

(保健) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・動機づけの後に、項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示がしてある。
	観点2	・「ステップ1：気づく・見つける」→「ステップ2：調べる・解決する」→「ステップ3：深める・伝える」→「ステップ4：まとめる・生かす」という学習過程で構成されている。 ・ステップ1～3には問いかけ形式の見出しがあり、ステップ4には、穴埋め形式の問題と本時の学習課題について振り返りを書くように促す問いがあるまた、ステップ4には、次時の学習内容を予告している。
	観点3	・発展的な学習に関する内容の記述が第3・4学年と第5・6学年合わせて20である。
	観点4	・書体にユニバーサルデザイン教科書体を採用している。 ・統計資料(7) ・初経、精通を経験した時期の統計資料(グラフ)が平成23年のものを使用している。 ・薬物乱用に関するページ数(4)
	観点5	・自分の知識や経験に照らしてまとめるなど、自分の考えを記入するスペースがある。
4 大日本	観点1	・全ての章のはじめに「学習ゲーム」を掲載し、質問形式の課題提示がしてある。
	観点2	・「課題をつかもう」→「いろいろな活動を通して課題を解決しよう(やってみよう、話し合ってみよう、調べてみよう)」→「活用して深めよう」→「まとめよう」→「毎日の生活に生かそう」という学習過程で構成されている。 ・「いろいろな活動を通して課題を解決しよう(やってみよう、話し合ってみよう、調べてみよう)」→「活用して深めよう」には問いかけ形式の見出しがある。
	観点3	・発展的な学習に関する内容の記述が第3・4学年と第5・6学年合わせて15である。
	観点4	・統計資料(8) ・初経、精通を経験した時期の統計資料(グラフ)はなく、体の変化として載せているグラフの資料が平成17年のものを使用している。 ・薬物乱用に関するページ数(2)
	観点5	・話し合い活動を行うための見開きがある。

207 文教社	観点1	・各単元のはじまりに、学習を見通せる「動機付け」ページを配置している。
	観点2	・「ふりかえってみよう」→「考えてみよう」・「調べてみよう」・「話し合ってみよう」・「やってみよう」→「新しい自分にレベルアップ」という学習過程で構成されている。 ・それぞれの学習過程には問いかけ形式の見出しがある。
	観点3	・発展的な学習に関する内容の記述が第3・4学年と第5・6学年合わせて17である。
	観点4	・統計資料(13) ・初経、精通を経験した時期の統計資料(グラフ)が平成24年のものを使用している。 ・薬物乱用に関するページ数(2)
	観点5	・各時間の終わりに書くスペースがある。
208 光文	観点1	・日常生活の4コマのイラストから、学習課題を提示している。
	観点2	・「学習課題をつかむ」→「課題解決に向けて、学習活動をする(調べよう、考えよう、やってみよう、話し合おう)」→「学習をまとめる」という学習過程で構成されている。 ・それぞれの学習過程には問いかけ形式の見出しがある。
	観点3	・発展的な学習に関する内容の記述が第3・4学年と第5・6学年合わせて32である。
	観点4	・統計資料(16) ・初経、精通を経験した時期の統計資料(グラフ)が平成25年のものを使用している。 ・薬物乱用に関するページ数(4)
	観点5	・協働学習・話し合い・記述のスペースがある。
224 学研	観点1	・全ての章のはじめに写真を掲載し、学習内容につながる質問形式の課題提示がしてある。
	観点2	・「つかむ(チェックする、ふり返る、話し合う、考える、たしかめる、くらべる)」→「考える・調べる(考える、調べる、資料を読み取る、話し合う、くらべる、ふり返る、チェックする)」→「まとめる・深める(学びを活用する、生活につなげる、目標を立てる、実習をふり返る)」という学習過程で構成されている。 ・それぞれの学習過程には問いかけ形式の見出しがある。
	観点3	・発展的な学習に関する内容の記述が第3・4学年と第5・6学年合わせて20である。
	観点4	・統計資料(6) ・初経、精通を経験した時期の統計資料(グラフ)がない。 ・薬物乱用に関するページ数(2)
	観点5	・生活につながる記述のスペースがある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	英語
第1推薦	2 東書
第2推薦	61 啓林館

(英語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の冒頭に Our Goal として、各単元の学習目標を提示している。 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに、世界の建物や食べ物等の写真やイラストを掲載している。 二次元コードを活用し、世界の有名な建物や食べ物等について聞く・読む・書く活動、歌やチャンツを設定している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 各単元末の「Enjoy Communication」において、話す活動、小テーマ毎（年間3回）の最後に「Check Your Steps」を設定している。 巻末に絵カード資料、辞書として活用できる資料「Picture Dictionary」がある。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 1ページ1時間扱いの見開き構成となっている。新ユニバーサルデザイン書体で、4線ノートの幅や線種、基線の色使いが示されている。第2線と基線の間幅が広く、文字の形や高さを区別しやすくしてある。 ユニバーサルデザインの視点から、活動が紙面上の定位置に配置してある。 5領域に関連したキャラクターを設定し、紙面に明示している。 巻末資料、付録等として、絵カードやコミュニケーションカード等が設定されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 対話が段階的にレベルアップしている。 言語の使用場面や働きを重視し、「Small Talk」、「Sound and Letters」が各単元に設定されている。 英語を使用する日常の場面が設定されている。5年生では日本、6年生では世界を取り上げ、視野を広げるように示されている。
9 開隆堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の冒頭に、各単元の学習目標を提示している。 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに、世界の建物や動物、食べ物等の写真、国旗と国名を掲載している。 二次元コードを活用し、ツアープランナーの話聞く活動、チャンツ、ゲーム、クイズを設定している。

	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 各単元末に Let' s Try において、話す活動、年間2回の Project が設定してある。 巻末には、辞書として活用できる資料や絵カード等が設けられている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 識別しづらい色遣いを避け、文字を表示している。 4線の幅が4：5：4の間隔で示されている。基線を太い青色で表示している。 英語を書くときのポイントをアドバイスするキャラクター（鉛筆）等を設定している。 巻末資料、付録等として、ふろく1～8（単語リスト、絵カード等）が設定されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 「読み・書き」は教科書後半に独立してまとめられている。 語彙等の知識を身に付けた後、表現活動で実際のコミュニケーション活動につながる構成になっている。 日常生活に関する題材を扱い、ペアやグループ活動を行うことが設定されている。
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の冒頭にレッスンの目標として、各単元の学習目標を提示している。 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 単元冒頭にはレッスンのとびらとして、単元名、学習のめあてとともに、学習の進め方を掲載している。 学級の児童が行きたい場所について話している内容を聞く活動、歌を設定している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 単元末に Use & Check を設け、年間2回の Project Time で活用する活動を設定してある。 巻末には、や各 Lesson の「Song for Lesson」や絵カードがある。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 4線の幅が5：6：5の間隔で示されている。 巻頭に8人の人物を紹介しており、2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。 巻末資料、付録等として、World List やローマ字表が設定されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 文を提示する際、文頭の表現を揃えている。 「自分にあてはまるものだけ」、「その人になりきって」繰り返し話す活動が示されている。 やりとりや発表の活動の目的が示されている。
15 三省堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の冒頭に、各単元の学習目標を提示している。 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに世界地図、世界の建物や動物、食べ物等の写真やイラスト、国名を掲載し、児童の興味・関心を高めている。 二次元コードを活用し、世界の有名な建物や食べ物等の写真やイラスト見ながら英語を聞く活動を設定している。

	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・活用する活動の設定として Presentation が年間3回ある。 ・巻末には、辞書として活用できる資料やアルファベットカードが設けられている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解をサポートするキャラクターを設定している。 ・4技能5領域を表すマークを使用している。 ・巻末資料、付録等として、ふろく（CAN-DO リスト、Words & Phrases 等）や別紙（アルファベット表、日本語のローマ字表）が設定されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・文及び文構造、語彙は単純なものから複雑なものへ段階的に配置するとともに、大単元の言語活動の目標に合わせて選択・配置をしている。児童の気付きにつなげるヒントを活動や脚注に入れている。 ・語彙については、全ての語彙が表現のための語彙として扱われ、大部分はイラストとともに綴りが提示されている。 ・コミュニケーション活動で利用できる語彙や表現のリストが巻末に配置されている。
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の冒頭に、各単元の学習目標を提示している。 ・文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに世界地図、世界の建物や動物、食べ物等の写真やイラスト、国名を掲載している。 ・登場人物の行きたい旅行先について映像と合わせて聞く活動、チャンツ、外国の人におすすめしたい日本旅行先について考える活動を設定している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元に Listen から Activity が展開され、Final Activity において、活用する活動を設定してある。 ・巻末には、辞書として活用できる資料や絵カード等が設けられている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・配色やレイアウト、表現方法、フォントについて、カラーユニバーサルデザインで示されている。 ・障がいのある人が描いた作品を教科書に掲載し、さまざまな人々との共生に関する資料が示されている。 ・第5学年の最初の単元に10人の人物を紹介し、第6学年には新しい担任と転入生が加わり、2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。 ・巻末資料、付録等として、My Word Bank やアルファベット表、絵カード等が設定されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語の語順の違い等の気付きを促す活動が設定されている。 ・新たに扱う文構造については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れられている。 ・各単元では、目標となる表現活動につなげるために、段階的に活動が設定されている。 ・各単元末の「Final Activity」では、学んだ内容を活用して、目的を持って取り組むコミュニケーション活動が設定されている。
38 光村	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の冒頭に、GOAL として、各単元の学習目標を提示している。 ・文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。

	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに世界地図、世界の建物や動物等の写真やイラスト、国旗を掲載している。 ・映像を見ながら、世界の国々について会話を聞く活動やゲームを設定している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末には、Jump の Can you do it! における話す活動や Fun Time がある。 ・巻末には、辞書として活用できる資料や絵カード等が設けられている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 学年の巻頭に「主な登場人物」として、7 人の人物と学習を助けるキャラクターを紹介し、第 6 学年には新たに転入生が加わり、2 学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。 ・4 技能 5 領域を表すマークを使用している。 ・巻末資料、付録等として、学びのパスポート、ローマ字の表、絵辞典、絵カード等が設定されている。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・読むこと・書くことは、聞くこと・話すことに慣れ親しんでから、文字→単語→語句→文と、段階を踏んだ活動が設定されている。 ・重要な語彙については書く活動も含めて何度も触れられている。小学校 3 年生から慣れ親しんだ表現の復習ができる構成になっており、各単元末の「You can do it !!」では、これまで学んだ表現を使ったコミュニケーション活動が設定されている。
6 1 啓林館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の冒頭に GOAL として、各単元の学習目標を提示している。 ・文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元がある。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに世界地図、世界の建物や動物、食べ物等の写真やイラスト、国旗を掲載している。 ・夢の海外世界旅行について聞く活動を設定している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元末の Activity において、話す活動、各学期の最後に Review で、学習したことを活用する活動を設定している。 ・巻末には、辞書として活用できる資料があり、絵カード等が設けられている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての横に、児童が達成度を確認できる図が示されている。 ・巻頭に「登場人物」として、9 人の人物と 2 羽の鳥を紹介して、2 学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。 ・4 技能 5 領域をマークで表示している。 ・巻末資料、付録等として、アルファベット表、絵カード等が設定されている。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・文字に触れる場面を設定し、段階的に文字を読んだり、書いたりする活動が設定されている。 ・基本的な語彙は、「Listen and Play」やチャンツなどで示しており、その後の「Listen and Say」や「Listen and Do」で繰り返し活用する場を設定されている。 ・単元末の「Activity」では、学んだ表現を使ってやりとりや発表をするまとめのコミュニケーション活動を行う構成になっている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	道徳
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(道徳) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを示し、2年生以降、「聞く」「役割演技」「話し合い」等の六つの学習活動を紹介している。道徳授業のオリエンテーションができるように巻頭で短い教材が示されている。 発問については、1・2年生は教科書に掲載されていない。3年以上は教材文の後に二つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 3年生以上は教材に入る前のページの全面を使い、問題意識をもたせ、教材の後に問題解決学習の流れを示している。 体験的な学習については「出会う・ふれ合う」のマークを使い、目次及び該当ページに示している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 AB判128～200ページ 教材数 A8～10 B7～9 C9～12 D6～8 いじめ問題を題材として直接的に扱う教材と、間接的に扱う教材の二つを、一つのユニットとして組み合わせた「いじめのない世界へ」を設けている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、「これから一年間で学ぶこと」「道徳の学習をすすめるために」「道徳の時間が始まるよ！（第2学年以上）」を示している。巻末には、「学習の記録」「学習のふり返り」「これからはかがやく自分に！」を設け、各教科等における道徳教育と関連するページを設けている。 「出会う・ふれ合う」「つながる・広がる」「問題を見つけて考える」「いじめのない世界へ」「情報モラル」のマークやDマーク、キャラクター「こころん」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭「ちょっとみんなで話し合ってみよう」の中にショートストーリーを例とし、自分の考えをもつ活動を設定し、話し合いの状況を示している。 巻末に、1時間の授業ごとに色を一コマ塗ったり学習を振り返って自己評価をマークで描いたりするページを設けている。1年間を振り返ったり、心に残った教材を振り返ってまとめたりするページを設けている。
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動について考える視点や話し合いの方法を示している。また、別冊「まなび」では、教科書とあわせた使い方や学習活動（話す、聞く、話し合う、役割演技をする。）についての説明がある。 発問については、別冊「まなび」に主題ごとに見開き1ページで示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 別冊「まなび」において、主題ごとに問題意識をもたせる問いを示している。 役割演技の方法を具体的に示し、役割演技を促す発問を示している。また、体験的な活動を促すページを設けている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 AB判118～150ページ（別冊：AB版50～54ページ） 教材数 A9～10 B7～8 C10～13 D6 別冊「まなび」は、内容項目ごとに、複数の教材について、自分の考えや友達の考えを書くようにしてある。 いじめの問題について日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。

	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「道徳の学習を始めよう」「学級づくり」を示している。別冊「まなび」には、「まなびの道しるべ」「教科書『まなび』の使い方」を示している。巻末には「ふるさとコラム」を示している。別冊「まなび」では、「まなびのヒント」として、話合いの仕方等を示している。 ・本冊「きづき」には、「ともにいきる」「情報モラル」「コラム」のマークを設定している。別冊「まなび」には、「こころのパレット」「かんがえよう」「みつめよう・やってみよう」「つなげていこう」のマークやQRコードなどを設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習を始めよう」の中に、話合いの状況を示している。別冊「まなび」の巻末に「まなびのヒント」のページを設け、上手な話し方・聞き方、上手な話合いのポイントを示している。 ・別冊「まなび」に、学習を振り返って自己評価をマークでかいたり、「まなびの道しるべ」に、心に残った話等を書いたりする欄を設けている。
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れ「きづく」「かんがえる」「ふかめる」「つなげる」を示し、「話合い」「役割演技」についての説明を示している。 ・発問については、冒頭に一つ、教材の終わりに示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名の下に問題意識をもたせる問いを示している。 ・体験的な学習を取り入れる教材は、目次で「スキル」というマークを示し、役割演技・体験的な学習の例を、「やってみよう」というコーナーにおいて10ヶ所掲載されている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判134～170ページ ・教材数 A8～12 B6～9 C10～13 D4～8 ・いじめ問題を題材とし直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、「道徳の学習が始まるよ」「道徳ではこんな学習をするよ」を示している。巻末には、「学びの記録」「1年間の道徳の学習を振り返ろう」のページを設けている。第1・2学年には「みにつけよう れいぎ・マナー」を示している。 ・色によって「いじめをなくす」「情報モラル」「生命尊重」を示し、中心的な発問や「スキル」マーク、QRコード、キャラクター「とりどり先生」などを設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳ではこんな学習をするよ」の「考える」の中に、「話し合っ て考えよう」として、話合いのポイントを示している。 ・巻末に、学習した日付や教材で心に残ったこと等を記述したり、1年間の道徳の学習で振り返ったことを記入したりする振り返りのページを設けている。
38 光村	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年以上においては、学習活動について、考える視点や話し合う方法を合わせて具体的に示している。また、話合いの仕方、役割演技の仕方についての説明がそれぞれ1ページずつある。 ・発問については、冒頭の教材名の下に一つと教材文の終わりに、三つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを示している。また、問題解決的な学習ができるように「考えよう」のコーナーを設け、学習のめあてや発問を記載している。 ・教材文の後に挿絵とともに役割演技を促す発問を記載している。また、役割演技のやり方について説明している。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 B5判変型145～221ページ ・教材数 A8～10 B8～9 C11～12 D5～7 ・様々な内容項目からいじめ問題に結びつく教材を、よびかけとコラムとともに一つのユニットとして設けている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、目次の前に、命をテーマにした詩を掲載している。第2学年以上は、「道徳の時間」「この本で学ぶみなさんへ」を示している。巻末には、人とよりよい関係を築くための付録を示している。第3学年以上は、日本の伝統文化について、第5・6学年は、「あなたへのメッセージ」を示している。 ・「コラム」「考えよう・話し合おう」「つなげよう」などのマークやQRコード、キャラクター「こころん」「きらりん」を設定している。

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教材の終わりの「考えよう・話し合おう」の中に、教材における話し合う活動を示している。巻頭の「道徳の時間は」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。 「学習のまとめ」ごとに、区切りのページを設け、「学びの記録」とともに、自分の学びの変化や学んだことが生かされたことを記入する、「まとめ」の欄を設けている。
116 日文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> 三つの学び方「きづく」「かんがえる・ふかめる」「みつめる・いかす」を示し、「考える・深める」の場面での学習方法についても説明している。 発問については、冒頭の教材名の前と教材文に後ろに二つ記載している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> 教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを示している。また、問題解決的な学習を取り入れる教材は、目次においてマークで示している。問題解決的な学習の進め方について、「学習のてびき」として学習のめあてや発問とともに写真入りで説明している。 体験的な学習を取り入れる教材は、目次等においてマークで示している。また、「学習の手引き」において、写真を使って役割演技の方法を説明し、学習のめあてとともに発問を示している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 AB判154～190ページ（別冊：AB判42ページ） 教材数 A8～11 B8～10 C12～14 D5～8 別冊「道徳ノート」は教材ごとに、主発問について自分の考えを書くようにしてある。 「人との関わり」をテーマに複数の教材や関連するコラムを一つの「いじめ防止」のユニットとして、いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材に、コラム「心のベンチ」を組み合わせて、学期に1回ずつ設けている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、「道徳のとびら」「道徳の学び方」を示している。別冊「道徳ノート」には、道徳ノートの使い方を示している。巻末には、「あすをみつめて」を示している。別冊「道徳ノート」では、「道徳の学習で学んだことを書きましよう」のページを設けている。 「学び方マーク」「考えてみよう」「見つめてみよう生かそう」「教科書デジタルコンテンツ」などのマークや、キャラクター「ココロウ」「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」を設定している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「道徳の学び方」の「考えを深める」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。教材の終わりの「学習の手引き」（5年の場合6箇所）の中に、教材における話し合う活動（5年の場合3/6）を示している。 別冊「道徳ノート」に、学習を振り返って自己評価をマークで描く欄とともに、巻末に、道徳の学習で学んだこと等を記入する、振り返りのページを設けている。
208 光文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れ「といをみつける」「かんがえる」「まとめる」を示し、学んだことを生活に生かす流れについても説明している。また、教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。 発問については、冒頭の教材名の横に一つ、教材文の下段に二つと終わりに二つしている。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> 教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを記載している。 教材絵の後、「あいさつのれんしゅうをしてみましよう」という言葉を示し、体験的な活動を促している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 A4判変型158～194ページ 教材数 A7～12 B8～12 C12～14 D6～9 いじめの防止について、いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。コラム「みんな仲よし楽しい学校」を設けている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、「さあ、道徳の学習が始まります」「道徳の時間は、こんな時間です」「この本の使い方」などを示している。巻末には「学びの足あと」を設けている。 「命をかがやかせる」「情報社会を生きる」「情報モラル」「ことばのたからもの」などのマークや、キャラクター「みらいさん」「ゆたかさん」「トリー」「わんだ先生」を設定している。

	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを示している。 ・巻末に、学習した目付け、教材番号、授業後の心の動き、学びを記録する、振り返りの欄を設けている。また、学期末や年度末に、道徳で学んだことを振り返って記入する「まとめ」の欄を設けている。
224 学研	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動について、「話し合ったり演技したり 書いたりして考えるよ。」とまとめて示している。 ・発問については、教材文の終わりに二つ記載している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後に「ふかめよう」のコーナーを設け、問題解決的な学習の流れを示しているものがある。教材文の後の「やってみよう」のコーナーで役割演技の方法についての説明が具体的な発問とともに示されている。 ・体験的な活動については、友達への声かけを体験することで友情信頼についての考えを深める活動が紹介されている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 A4判138～170ページ ・教材数 A9～12 B8～9 C9～11 D6～8 ・いじめ防止をテーマとして直接的に扱う教材と、間接的に扱う教材を選定している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、目次の前に詩を掲載し、「道徳の学習が始まるよ」「自分のことを書いてみよう」を設けている。巻末には「心の宝物」を設けている。 ・「いのち」「深めよう」「広げよう」などのマークやQRコード、キャラクター「明日香」「未来」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の、学習の手順「考える」の中に、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを示している。 ・巻末に、道徳の学習を通して、心に増えた宝物や心に残った言葉・話を記入し、1年間を振り返るページを設けている。
232 廣あかつき	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達の発表を聞きましよう」「自分を見つめましよう」など、道徳の時間の学習活動を文章で示している。(1学年にはなし) ・発問については、教材文の終わりに二つ記載している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「考えよう、深めよう」のコーナーに、問題解決的な学習や役割演技に活用できる発問を掲載してあるものがある。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判118～170ページ (別冊：AB判44～56ページ) ・教材数 A10～11 B8～9 C10～11 D5～6 ・別冊「道徳ノート」は、内容項目ごとに解説があり、自分の考え等を書くようにしてある。 ・低・中学年では「仲間はずれ」「友達どうしのトラブル」等、いじめを間接的に扱った教材を選定し、高学年では、いじめを直接的に扱った教材も合わせて選定している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭は詩を1ページで掲載している。第1学年は「どうとくのじかんは」を、第2学年以上は「道徳の時間はこんな時間」を示し、「今の自分を見つめて」のページを設けている。巻末には、第3学年以上に、教材と関連して学びを深める特集のページを示している。別冊「道徳ノート」では、折り込みで「心のしおり」を設けている。 ・「学習の道すじ」「学習を広げる」「インターネット」などのマークを設定している。 ・別冊「道徳ノート」では「鉛筆マーク」を設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間はこんな時間」の中に、学習全体でねらいとする活動や内容を紹介し、話し合いの意義やポイントを簡潔に示している。 ・別冊「道徳ノート」に、考えたり振り返ったりしたことを書く欄や、巻末に、心に残っている授業等について記録するページを設けている。